本文章の出典は下記です。引用の場合は注記を願います。
玄野武人「男子への性的いじめは、セクハラです」、NPO法人 CAPセンター・JAPAN通信「The スペシャリスト」（第１８号、2007年３月、発行・CAPセンター・JAPAN）所収

男子への性的いじめは、セクハラです

玄野（くろの） 武人（たけと） （男性サバイバー）

わたしは性虐待の男性サバイバーです。2001年、男性への性被害をテーマにしたホームページを開くとともに、大阪で7人の仲間とともに、男性性被害者のための自助グループを立ち上げました。これまでに出会った男性サバイバーたちも、すでに100人以上になります。このような活動のなかで、学校時代に性的いじめを受けたたくさんの男性たちと出会い、彼らがその傷を誰にも話すことができないまま、快復に大変な努力を費やしてきたことを理解するようになりました。男子生徒に対する性的いじめの実態は生徒同士のセクハラであるにもかかわらず、大人たちは被害少年の心の悲鳴に耳を傾けてこなかったのです。

性的いじめの具体例としては、ズボンを無理やりに下ろす、裸にして廊下や教室を歩かせる、裸や性器をケイタイで写真に撮る、自慰を強要する、性器に落書きをする、肛門に異物を挿入する、生徒同士で性行為をさせるなど多岐にわたります。また、ことさらに女子生徒のいる教室で裸にすることで、被害男子の羞恥心をあおることもよく行われます。運動系や文系のクラブを問わず、新入部員に裸踊りを強要するなどが、儀式として固定化している場合もあります。そしてこれらは、小学校から大学まで、実にひろく蔓延しています。

性的いじめの加害者の目的は、なによりも被害者に恥をかかせることにあり、被害者の自尊心をぺちゃんこにすることを楽しんでいます。男子のいじめ自殺の背景に、あるいは直接の原因として、しばしば性的いじめがあることは間違いないところです。昨年10月、福岡で中２男子がいじめにより自殺したとされた事件でも、自殺の前にトイレで「下腹部を見せろ」と言われたと報道されています（毎日）。11月、新潟の中２男子が自殺した件でも、ズボンを脱がされています（同）。人は、恥によって死を選ぶことがあるのです。

性的いじめは、便宜上、いじめと呼んでいますが、実態は、同級生や上級生からのセクハラです。場合によっては、男子生徒間の性暴力と呼ぶべきケースもあります。もし、女子生徒が教室で同級生から裸にされ、大勢の男子に性器を見られたとしたら、その女子はたいそう傷つくことでしょう。男子にとっても、その辛さは変わりありません。しかし、教師も家族も社会も、「よくあること」「男の子なら当たり前」という固定観念にとらわれ、長年にわたり被害少年の痛みを見逃してきました。女子と男子とでは、性被害に関して、ダブルスタンダード（二重基準）になっていることが問題なのです。

現に性的いじめが起きている場合は、なんといっても加害者に性的いじめを止めさせなければなりません。止めさせることができなければ、さらにエスカレートする可能性があります。時には、警察の介入が必要となります。昨年10月、宮崎県では、下級生のズボンを脱がし写真をとった中３男子の２人が書類送検されています（西日本新聞）。また、女子生徒の間でも、性的いじめは起きています。2002年、愛知県の中３女子の２人が、中１女子の衣服を脱がせて携帯電話で写真を撮り、メール転送した事件を警察が捜査しています（日刊スポーツ）。女子生徒同士の性的いじめは、男子に対する性的いじめ以上に社会の理解を得にくいようですが、実際にわたしは性的いじめにあった複数の女性被害者たちからも話を聴いてきました。

性的いじめの予防策としては、生徒同士でもセクハラがあると、まずは社会がひろく認識することでしょう。また、性的いじめは他の性暴力と同様に、加害者に責任があり、被害者は悪くないことを、子どもたちにも理解させることが大切だと思います。大人向けのセクハラ講座やパンフレットを、小中高生向けに改良して配布するのも一案でしょう。小学生の道徳の授業に、生徒同士のセクハラを取り上げるのもよいと思います。もちろん、CAPワークショップも役立つことでしょう。

安心・自信・自由は、誰にとっても必要です。この安心・自信・自由が、性的いじめの被害少年たちの心にも届くことを強く願っています。

ハンドルネーム：くろたけ
メールアドレス：ranka222@kitty.jp
ホームページ名：If He Is Raped
URL：
http://www.comcarry.net/~genbu/index.html